

## 1F2号機格納容器X-6ペネハッチ開放作業に係る確認事項

No.	資料のページ番号※		回答
1	P. 5	シール材であるOリングの材質をご教示いただきたい。	シール材(角型ガスケット)の材質:シリコンゴム
2	P. 5	シール材であるOリングの溝部にオレンジ色と黒色の部分が見られるが、それぞれの箇所にある物質についてご教示いただきたい。	オレンジ色の部分は角型ガスケットの元々のオレンジ色が見えていと推定。黒色の部分はガスケットがフランジ面から脱落した箇所やガスケット表面に、ペネ内堆積物や外側に流出した物質と同様のものが付着しているものと推定している。
3	P. 6	この写真ケーブルの被覆が消失(溶解)して導体がむき出しになったものと思われる。事故時にこのペネに配置されていたケーブルの被覆材の材質とその熔融温度(及び変質する温度)をご教示いただきたい。	ケーブル被覆材の材質:クロロプレングム。 高温試験の結果は、第29回検討会 資料1-2「ケーブル・塗料・保温材の可燃性ガス発生量評価試験結果」を参照
4	-	2号機X-6ペネ調査装置付着物のスミア試験の結果において、海水成分であるNa, Mgがどの程度含まれるか、定量的に割合を示していただきたい。また、今後行うX-6ペネ堆積物の分析においても、Na, Mgがどの程度含まれるのか、定量的に割合を示していただきたい。	定性分析(ICP-MS)にて、Na, Mgは操作ブランク(スミヤ紙を溶解させた溶液)と同等であり、主にスミヤ紙由来と推定(11/28面談資料p13)したため、定量評価は行わなかった。 ただし、SEMではごく一部の観察視野で数 $\mu$ ~10 $\mu$ m程度のスポットとして検出(11/28面談資料p19)されている。今後の分析においても引き続きNaやMgの検出に注目していく。
5	-	2号機X-6ペネ調査装置付着物のスミア試験の結果における、堆積物の粒子の形状、粒形の分布、全体の平均組成、ペネの堆積物自体の線量に関する情報を示していただきたい。また、今後行うX-6ペネ堆積物の分析においても、上記の情報を示していただきたい。	①粒子の形状:11/28面談資料のSEM, TEM分析結果を参照 ②粒径の分布:U粒子を観察した結果、数百nm~数十 $\mu$ mの粒子が点在(11/28面談資料p7)。 ③全体の平均組成:UやFeの代表核種に対する割合は11/28面談資料p17参照(スミヤ紙上の付着物のみの重量測定が困難であったため、全体の平均組成は評価しなかった)。 ④ペネ堆積物の線量情報:スミヤサンプルについては、 $\gamma$ :0.006~0.008 mSv、 $\beta$ $\gamma$ :3.0~5.0mSv(12/25検討会向け資料に反映予定)。
6	-	2号機格納容器内壁のうち、X-6及びX-53ペネの周囲の壁面にX-6ペネと同じ堆積物が付着しているのか、ご教示いただきたい。	12/25検討会にて、X-53ペネ関連試料について分析結果を提示予定(JAEAにて資料作成中)

※第40回東京電力福島第一原子力発電所における事故の分析に係る検討会 資料2-2 のページ番号